

平成30年度

滋賀学園高等学校 学校評価(自己評価)

本年度の重点目標

・校訓『誠実・忍耐・努力』の実践
 ・主体的に「学び続ける生徒」を育てる特色ある教育活動の実践
 ・社会の変化に柔軟に対応しながら、国際的視野の獲得と同時に地域にも根ざした魅力ある学校づくりの推進
 ・生徒ひとり一人を大切に、生徒の将来像を見据えたキャリア指導の徹底と高大接続への具体的な指導環境の整備
 ・生活習慣および規範意識を身につけさせ、他者と協働していくことのできる生徒の育成

領域	重点評価項目	総合評価
1 学校経営	『地域に根ざした魅力ある学校』を目標とし、特色ある学校づくりを進めている。	A
	本校の生徒は充実した学校生活を送っている。	A
	本校に入学した保護者の満足度は高い。	B
	滋賀学園の教職員としての使命・職務を自覚し、教育活動を推進している。	A
2 学習指導	授業時間を確保し、シラバスに基づいた計画的な学習指導を行っている。	B
	学習状況の説明や家庭学習の把握のため、保護者との懇談や連絡を緊密に行っている。	A
	成績が低迷した場合に適切なフォローの仕組みがあり、補習授業等の取り組みが行われている。	A
	校内外の研修等を通じて、確かな教科指導力向上を図り、生徒の授業満足度を大きく高めるよう努めている。	A
3 生活指導	遅刻や服装など、基本的な生活習慣の確立を目指す指導を適切に行っている。	A
	生徒と保護者は教員とのコミュニケーションが十分とれ、その指導に納得している。	A
	生徒との良きコミュニケーションに努め、挨拶等の礼儀指導を適切に行っている。	A
	いじめや不正の実態把握に努め、生徒が発する危険信号等を見逃さないようにして早期発見を心がけている。	A
	カウンセラーや専門機関との連携を緊密にし、生徒・保護者への相談活動を活性化しよう心がけている。	A
	生徒のトラブルや学校生活での問題に対して、迅速かつ適切な対応をしている。	B
4 進路指導	各学年と連携し、「一つ上をめざす」進学意識を育てている。	B
	進路学習と連携し、大学受験等をめざした講習等を計画的に実施している。	A
	進路LHR等を利用し、個に応じた丁寧な進路指導を行っている。	A
	学年と連携を図り、年次進行における進路ニーズを把握して、望ましい勤労観・職業観を育成している。	A
	進路説明会や入試情報など進路情報の提供に努めている。	A
	模擬試験等を活用して学習状況を計画的に把握し、学年集団・個人への効果的な指導体制をとっている。	B
	模試後の面談等によって、生徒の学力分析ができ、その後の学習指導に役立てている。	B
生徒が意欲的に自分の将来を考え、決定できるように全教員が様々な場面で支援している。	A	
5 特別活動等	生徒会活動や各種委員会活動の活性化を図り、生徒の学校生活をより良いものにしていく。	A
	生徒の発達段階や学年に応じたLHR活動を計画的に行い、内容の充実を図っている。	A
6 学校図書室	教科指導や特別活動において図書室を積極活用し、利用の拡大を図っている。	B
	読書活動を推進し、生徒の貸し出し数の増大を図る取り組みを行っている。	B
7 保健指導	健康への関心を高め、食物や薬物、性に対する正しい知識を身につけるよう指導している。	A
	教育相談やカウンセラーを中心に、相談を受けやすい体制作りに取り組んでいる。	A
8 人権教育	あらゆる機会を通じて、命の尊厳と大切さを認識させる教育を実践している。	A
	人権意識を高める指導が日常的に行われている。	A
	人権に関する教育を充実・発展させるための学習、講演会等の充実にも努めている。	A
9 環境教育	校内美化に積極的に取り組んでいる。	A
	ゴミの減量化に努め、光熱費の節減に努めている。	B
10 事務・管理	学校や施設・設備の安全管理に努めている。	A
	施設・設備の省エネに努めている。	A
11 その他 学校の取組み	地域活動に積極的に参加し、連携を深めると共に、積極的にPTA活動を推進している。	A
	高大あるいは中大、中高の学校同士の教育連携を積極的に行っている。	A
	学校は個人情報的重要性をよく理解し、その保護に努めている。	A
	課外活動において高い競技力や技術力等を身につけさせることを通じて、心身の成長を図り、人間性を高める指導に努めている。	A
	学校ホームページ等で学校情報を地域や保護者に積極的に発信している。	A

注) ・評価表の見方: 9月 学校教育目標に基づいた重点評価項目の策定。

10~12月初 中間評価(自己評価)の公表(9月までの教育活動に対する中間評価)1・2・3・4の4段階評価で示す。

3月 総合評価(自己評価・学校関係者評価)の公表(年間の教育活動に対する総合評価)1・2・3・4の4段階で示す。

・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。

・評価値の基準は、肯定的な評価が75%以上を4、50%以上75%までを3、25%以上50%までを2、25%未満を1とする。

平成 30 年度学校評価 分析・総括

<全体> 昨年度より本校は生徒の 5 つの力（知る力・読み取る力・考える力・書く力・伝える力）を伸ばし、確かで発展的な学力の育成を重点目標として取り組んでいる。また、同年度の新入生より、学習や特別活動の履歴となるポートフォリオを生徒一人ひとりが 3 年間かけて作成してゆくという取り組みをスタートさせた。評価項目全体を通して、概ね肯定的な評価となっていることから、次年度においてもさらに教職員間の相互理解を図り、保護者や地域の関係者と連携しながら継続した教育活動の充実に向けた取り組みが必要である。また、一昨年から取り組んでいるタブレット PC を使用して生徒の学力を伸ばすためにはどのような活用方法が効果的かという課題についても授業の展開方法の工夫や教材研究を行って実現しなければならない。

<学習指導> 今年度も授業時間の確保とシラバスに基づいた計画的な学習指導の項目においては一定評価されているものの、学習状況や家庭学習の把握のための指導や成績が低迷した生徒に対する適切なフォローの仕組み、模試の振り返りや補習授業等の取り組みに対して改善の余地がある。生徒の授業満足度を高めるための取り組みが継続的に必要となっている。

<生活指導> 基本的な生活習慣の定着や問題行動を起こした生徒への対応や指導に対しては今年度も肯定的評価が得られている。しかし、大きな社会変化の中で価値観の多様性や情報機器の目まぐるしい進歩による SNS の普及が新たなトラブルの原因となる中、生徒の問題行動を未然に防止するためには教職員の初動対応等の危機管理意識を高める職員研修の充実や体制づくりが喫緊の課題である。生徒会活動においては今年度も学校行事に生徒会が積極的に関わり、オープンスクールにおいて生徒会が中心となって運営してくれたことで、他の生徒の生徒会活動への理解が深まり、学校全体としての活動として定着したものとなっている。次年度も生徒会と教職員集団が協力体制を作り、引き続き学校行事やボランティア活動への積極的参加を通して、生徒間のコミュニケーション力の向上により、いじめの防止等に取り組みたい。

<進路指導> 2020 年度の入試制度改革に向けて、教育課程の中でも「社会とのかかわり」や「探究活動」を意識した内容の授業を展開しているところではあるが、生徒の家庭学習時間の減少、早い段階で進路が決定する生徒の学習意欲の低下、進路未決定生徒への指導対策など中学生から選ばれる魅力的な学校にするためにも進路指導はますます重要になっている。系列大学への進学者を増やす一方、生徒の多様な進路希望に応えることも重要であり、生徒が意欲的に自分の将来を考え、決定できるように全教員が様々な場面で支援してゆく機会を設け、進路学習のさらなる充実に努めることが必要である。

<学校図書館> 本校では、図書室利用の促進や読書指導を通して、優れた文章に親しむことで多様な視点や広い視野を獲得し、知識と教養を深め、思考力・判断力・表現力等の育成を図る取り組みを重点としている。今後はデジタル教材や ICT 機器の活用が促進されるような取り組みをどのように行ってゆけばよいか課題となっている。

<保健指導> 今年度も健康教育・健康診断・健康相談・救急措置・病気の予防・環境衛生に関する生徒の健康と安全を図るための取り組みを行った。今年度メンタルヘルスへの対応では、昨年度の評価に基づいて利用環境改善に努め良い評価となっている。次年度も生徒からの相談、保護者や教職員からの相談など、カウンセラーへの相談体制充実に取り組むたい。

<環境教育・事務・管理> 校舎等の安全点検は計画に則って実施できているが、近年、今まで経験したことがない自然災害の発生が多くあり、校舎が破損に見舞われるという年であった。今後も事故や自然災害時の生徒の安全確保を最優先した体制作りなど学校管理体制の充実が求められている。